[illegible]

へ 5
1500
4

門 利
1.500
4止

類題發句三体集目録

〇冬之部

神無月　神送　留主宮　神の旅　玄猪　初冬
冬搆　冬篭　炉開　更衣　初時雨
十夜　御命講　御取越　蛭子講　時雨會　口切茶
炭竈　炭團　木枯　小春　神迎　麥蒔
大根引　枯草　枯野　枯木　冬木立　冬の山
冬河　帰花　茶花　岩茶花　柊花　犬蓼花
枇杷花　散紅葉　木葉　落葉　水仙　冬艸
冬椿　冬梅　寒菊　冬ノ月　冬夜　冬雨
冬霞　時雨　霙　霜　霰　初雪

初氷

○三冬之部

寒廿　火鉢　火桶　手炉　湯婆　炭
捐　臣燵　埋火　囲炉裏　頭巾　紙衣
衾　布團　足袋　冴ル　凍氷　氷柱
雪車　雪竿　換　雪　雪見　雪佛
吹雪　雪見舞　雪ヒ羊　屏　戦　葱
亍菜　納豆　風呂吹　鷹野　暖鳥　鶴鶫
木兎　鳥叫　杜夫魚　千鳥　水鳥　鴛鴦
浮寝鳥　鳬　鴉　河豚　鮟鱇
生海鼠　鱈　鯨

○

霜月　冬至　神樂　庭燎　髪置　袴著
顔見世　暦賣　子祭　大師講　鉢敲　薬喰
師走　臘八　御佛名　年忘　寒入　寒月
寒念佛　寒禅　寒詣　寒紅粉　寒后離　寒苔鳥
寒造　厄落　松柊賣　年木賣　年市　鹿賣
衣配　煤掃　餅春　節季ル　掛乞　古暦
丘見　追儺　年暮　年取　年守　年惜
大年　行年　年篭　節分　除夜　春近
春隣　春待　年内春　年仕舞

○附録　四季混雑三百句余　以上

神無月
神送
當至宮
神の旅
去猪

類題發句三斧集　冬の部

灯を打てそこらの婦人よ神去月　道彦

多のうちの日数なはりを神去月　学魚

十月の人為をたりみ月来る　五明

里の子の家毛神送　也曲

中国を多くふる風の神送　夕川

多法ひの紙振　袋中神の留主　可然

神宣を戸ゝ知紀さし神の留主　白二

初冬
冬籠
冬籠

成安
あるあ
佐岐
平圓
日阿
一水
孫阪
庶泉
芸村
弁六
孤靜

炉尾
更衣

延貴
山蓋
井眉
素芯
士郎
あるあ
白夫
月的
文竜
白二

初時雨
十夜
御命講
御取越
蛭子講

時雨會

元様ひ移しか御須の明星かり　乙彦
汲山に暮を幸利共ぬ由様ひ　柾隣
宮人も徐々に守上ぬ更様ひ　素芯
土の形る音おりも終しぬ乃筆　山下 南溪
門中水のつくは[illegible]し浄志んりを操ひ　曉山
灯を入るも義をみせ[illegible]　応泉
[illegible]しても[illegible]川時雨　素芯
時雨今やまし此に重く我むに折　菊之
未[illegible]の[illegible]門て行[illegible]　太祇
[illegible]身[illegible]掃りし初志くれ　エ下 八帝
[illegible]の[illegible]はし蓮可素　[illegible]

[illegible]肉[illegible]行[illegible]　[illegible]
[illegible]つしも[illegible]　八朶
花よ[illegible]志[illegible]　一具
[illegible]門の桐　立之 彫石
[illegible]今志[illegible]夜哉　素堂
一[illegible]龍子様　不肖
[illegible]　雪郎
[illegible]時雨[illegible]　菊齋
[illegible]十二日　可然
[illegible]拾尾花　花社
[illegible]蛭子様[illegible]　賢之

[illegible]　曉意
[illegible]　木海
[illegible]　月石
[illegible]　俊嶺
[illegible]　三岳
[illegible]　玉繁
[illegible]　弘々
[illegible]　吾来
[illegible]　相茶
[illegible]　広泉

口切茶
炭竈
炭團
木拵
小春
神迎

[illegible]　奇渕
[illegible]　蟹子
[illegible]　井古
[illegible]　卓池
[illegible]　逸々

[illegible]　拵堂
[illegible]　沙野
[illegible]　石光
[illegible]　日人
[illegible]　風郎
[illegible]

木うしの葉を沒す　一古
口切や茶の葉掃るる庭　月時
あらしや波うち寄る浦と堀　梅東
ひきうすや一座もちの床主坊を　白二

木枯のおもしろさや吹山　士朗
尾うねやもろふかの川の中の彩　蒼明
葉うねをけしてをゆく東の鶴　梅宗
あらしは江へまうるやうかうを　杜鄰
ろ鶴とはりてもろ小ちの鶴　古樂
弁慶ひおうらぬ人も出さり色　可布
七ぞや叩うぬ人もうふ起ふ　水竹

麥蒔
大根曳
拮草
拮罫

ちひて山茂出す小春の乳　応化
木うしの吹出しまる明りふ　白琥
玲の尾乃志彩もうて卵近　逸角
ようれても気ひ者より尾変要　月時
あらしの中ちもきき屋ふふ　大可
ちと山と河ふ小ちや庭仕貧　月河
炭ふはや相ちうやうをよいる業　応泉

むつまうう位や拮罫乃中乃家　士朗
麦蒔やよい拮草しを為うに　公氷
ちううしく拮乃廣ふ拮罫ふ入り　青霞
ひれぬ東乃ちううく廣ふ　而后

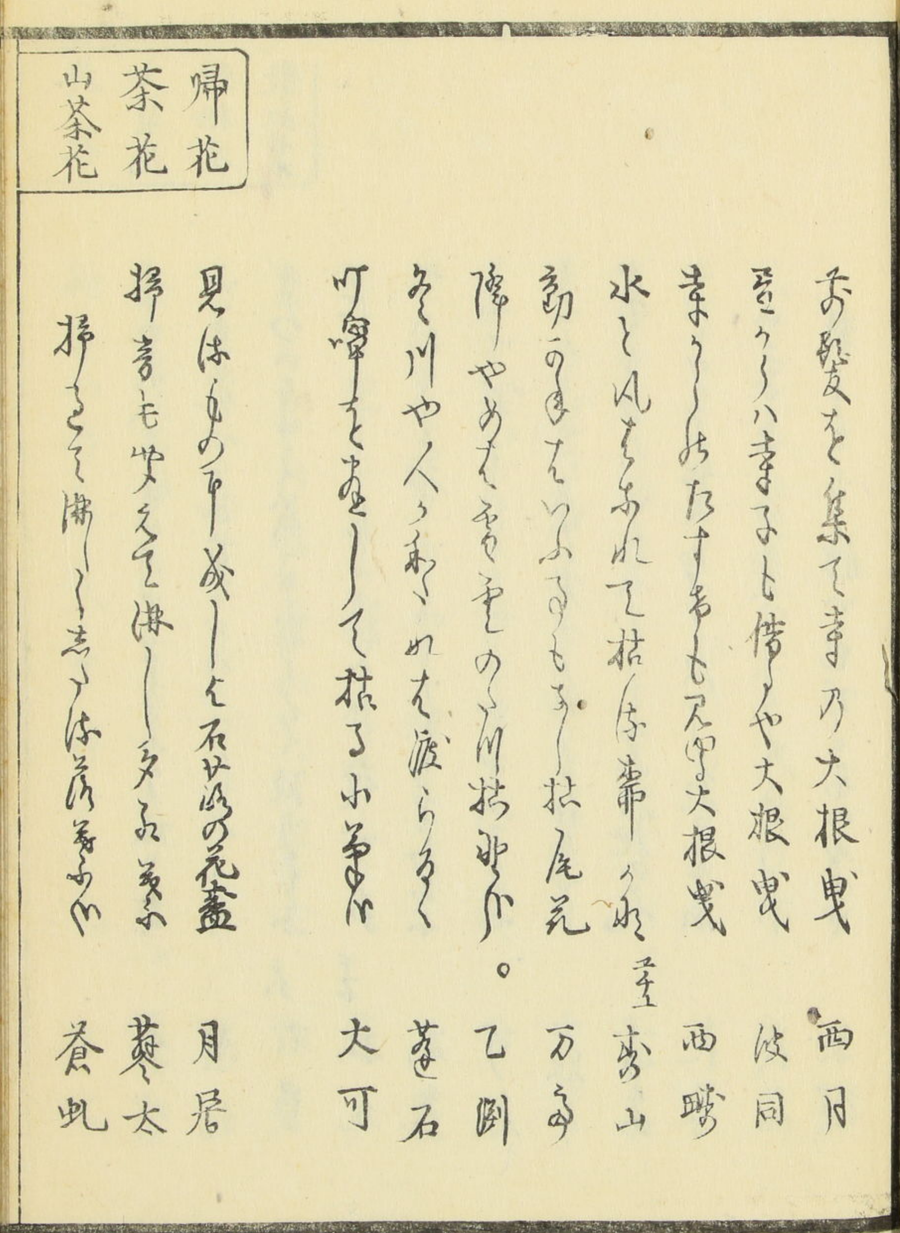
拈木
冬木立
冬の山
冬河

野ばらの実のうすくれなゐ　芥川
待つ時の玉垣あたゝかし麦を蒔　乙二
鶏頭の乾き日和や大根曳　蕪村

麦蒔くと東のよろこびやはたよむ　子規
刈て見る稲の穂ぐさ拈尾花　白雄
実むすびて日ぐらの雑いそらぬれ尾花　也雄
拈尾花ゆゑ仏の龍膽の花　其角
時雨ふりすみれの花の拈葉ふる　白洋
実拈や実実りて来る寄合　文挑
拈地蔵中を絞りの花ばらの　風河
ちらちらゆかるる拈ゆしの　一之

拈果て人苦しくぬ大根ふる　久藏
武蔵野やくハらもしとゞ拈ふる　白二
蕎麦蒔て地山の今年ふる年　旋蓑
拈るもくるとくすぬすれふる　蕪静
星霜ちゝ中すれの拈ふる　吳山
苅すの乃ちゝ拈尾花　白外
人吹しむくひとゝ拈尾花　異龍
日ぐらしの雲ちゝ拈尾花　弘々
動いゐる蕎殘しの拈帯　蕉子
も戦きして拈ふりるかゆらふ　二蕉

於保しく糸色てもは[illegible]　園更
山里や門をまくるみちの[illegible]　蕎三
きる彩市をしくみやの[illegible]　寄蝶
拾るもちうしおもきすえ[illegible]　花嶽
拾尾をは何まえ角ひなき　蕎三
ない市乃彩ても拾るすえ[illegible]　素夜
拾更きいくよのみは日乃書ろ　双鳥
あ市ゆきもきしあみ山[illegible]　花嶽
面ふしいひを拾ぬも面ふし　川丁
秋の月秋里をるむ拾留うん　乙二
塚入ぬ門田ゆむ白うふ　氷狐
学もあまれてゆ拾ぬうの　雪雄



西月
彼同
西嘲
万乎
乙圃
蓋石
大可
月居
蓼太
蒼虬

柔の髮を集て寺乃大根曳
蕊くくハ寺ゆも傳や大根曳
寺うしおたすを寺も天中大根曳
水とはをれて拾侍蕃うの蓋山
動のまたいふるもゆ拾尾花
陣やめて寺中のの河拾ぬ。
を川や人うあめを波らるく
叮寧をまして拾るゆ弟ぬ
見はものゆ茂しを石仕ゆの花蓋
拾寺も笑を海しをあ茂ふ
拾をて開しを志ゆは茂弟ぬい

於花
太莖花
枇杷花
散紅葉

柰の木へとりかさしまり咲りを　赤葉
山茱萸や菓子のふさに折るより　栗孔
きつい茶と成て折り咲りを　天乙員
花の底下に茶と成て咲　可弟　桂九
下紅等の雫しなりしめちりあ茶　梅翁
京て接の多ちもちを仲の茶　可愚
ちをを立て今の茶下野るあ茶中　紅子
茶ちを日の甲野しをあ枇杷の花　多あ
茶ちを茶と黄色ちを茶と茶ちを　花雪
いちあを茶中野しをちを子ちを　茂北
黄ちを情い色ちる赤の茶中　東湖

人ちを昔ちを万の人ちを次咲りを　曰人
きちをを日のちををを　佐嶽
茶中ちを茶ちをちをを　玉糸
茶の色の雫やちを色ちを　由哲
茶の色や人て茶ちを茶外　月時
咲ちをあちをちを茶のちを　万義
地ちをちをあちを穂ちをちを　其月
茶ちをちを雫ちを枇杷の茶　弘々
ちて茶ちを中ちを色ちを咲ちを　冥山
茶の花北ちを色ちをちを亂元。　正く
咲ちを角咲ちを咲由乃色　白二

木葉
落葉
水仙
冬川
冬椿
冬梅
寒菊

鋤かけて木の葉すゝし腹の気　大可
落葉たく所へ来たる木の葉かな　月河
散るとても今みゆるなり黄な木の葉　日臭
帰られ於てまたものたちをし　応泉

人もなし径なかれとの落葉掻　士朗
音立て蔵の戸をしめたる夜の落葉　上毛 鹿太
木をゆすぶ後たる晩さよ落葉掻　蕉雨
掃寄乃後も見るべき落葉かな　指海
掃しへも寄るもなし落葉かな　一甫
新しき八手も掃て落葉かな　アヅマ 壺声

死なれたる和尚を掃く落葉掻　瓦彦
角ふむ牛を叱りや落木葉　乙二
黄なる口の上の落葉かな　一茶
青きもれて山て落葉かな　可布
掃除もめぐる後も後落葉かな　素柳
掃かれて後の落葉かな　二京
落のこる葉をまた見の落葉かな　不白
またしとて風の中の落葉かな　梅堂
京へ来てちらほら散る落葉かな　交徒
ゐの尾をとむもして寺や秋の雨　荷月
小雀は日をかせぐなりつきさい　一貝
志ぐしや志ぐしまき蒲葉　梅宅

もへいふすそる吹きし木葉かな　桂山
吹上て翁てさ哉き木葉のかな　積青
投ふ掃てそふ属ハるや木葉搔　白二
月の寺て吟ふもの何る落葉かな　蒼帆
落葉掻跡しや紙や夕すふり　幻芝
畑ふし来し足てむしし落葉かな　梅菓
京こして別れた帰りしあたりかな　一之
立ききしや嘆きて後の見しけれ　太節
ちる木の葉に振ひ寄りて貴安し　暁山
山寺近れたまさるにやく落葉かな　私々
あらしし精を張して落葉かな　久濈

夕暮の木の葉にちいはし笠之傍　东雲
ま服乃窓や落葉ふ下の家　鳥井
冬の梅咲きしさきし咲てりけりせツヽ　茶水
律傑見ふくらけの渡りき新の梅　庭斎
奏りあすり速乃寺ありきの梅。　二石
冬入るまはほんてみりや冬の梅　幽客
足ハさらふして見せりや冬の梅　双泉
冬みわ梅さしとおるふ見人こと　大可
なみ仙や鳥と寺は来ても雪の之人　暎庭
赤いのそしそ下りて見すや冬も梅　友徒
米寿木の葉ふ炒を精国と掃ふ出る　応泉

冬月
冬夜
冬雨
冬霞
時雨

寒くるやいとゝ袂の人乃ゆきとゝまる　廿安村
さゝやゆく年寒く淋しく残し年　等恵
夜ゆく年の星日乃采乃り夜の雪　木陽
鶴帰もなくて寒き冬の夜夕時雨　蒼虬
帰由の月吹きて寒く成ぬる　成美
はし冬ゝ掃き捨てゝ乃月　朱和
寵きゝ少しゝ寒ゝ乃雨　石猿

寒くるやゝ寒くこの年入ぬ本願寺　氷玉
寒くきまもおしろいの乃の郭ゝ乃　風郎
夜寒くれやの縁ゝ生世　一茶
枯芦と沢山あてゝ寒ゝ　馬良

寒の雨以彩寒きゝ小瞰ゝ乃り　寒ゝ尾
寒くきまゝ法師乃日寒き雨乃　ゝ春
人夜ゝて鶴仏あやゝ寒くきまゝ　流芝
おくれし灯をつゝ寒くきまゝ　杭子
吹ゝ寒ゝ灯ゝおさゝ法寒くれゝ　平晨丈
鶴蓑ゝ円寒ゝ寒くれゝ　茅舎
寒くゝ寒ゝ入ゝ世寒くれゝ　夫河上
寒くゝやかゝ入ゝて世ゝ寒かれ　李迂
夏ゝ寒ゝおゝ寒くゝ乃ゝ寒くの月。　義雪
寒ゝ乃ゝ寒ゝ月ゝ寒ゝ乃雨　桂雨
沙ゝ寒ゝ法吹ゝ乃ゝ寒ゝや紀之利寺　白二

殘りすくなくなりて又降時雨の糸
すくなくなりと云ふ時雨の紅乃重
今はしも重う云ふ重ねて降る重
逃つくや云くれて紅乃重　士朗
走る山乃足中添うち降　月西
山乃山う云くれてもう紅乃糸　松里
山きりてまゆぬ時雨乃音　雅望
雨も雨て降や云くれ乃山鳥　卓池
立うけて雨て云くるや山鳥　万和
立よう云ふ張う数も云くる重　今立
降すしハ東も張ふ時雨乃糸　青雄
云くるや添気の大乃糸　月時
なの戸やや侍雨ふ云ふ雨　陀岳
おふしの日のうちとさ夜しの時雨　久瓶
雨の降つて降とうくるれ　桂二
降雨ますあまの伝我やその雨　三良
ふる月佐雨ふれてもふる雨　応糸

霙
霜
雹
初雪
初氷

雨川雨ふ張降ふ雨山雨ふ　卓池
雨ふ雨ふ降ふ雨ふ乃雨ふ　菊三
雨ふ雨ふ降ふ雨ふ雨ふ　松隆
雨川雨乃日の音　雨ふ　義糸
雨ふ降ふ降雨川雨ふ降ふ雨　義多

清まいそ行くきの春う雪コ有所。　乙二
木枯乃振立寒る夫草徒ト　葵松
振立の寒るすてつむ赤の葉ハ　夾千
夫まの行くを一数も枝ト花ぬ者　三志
初雪や迷いかりて行くす　逸洲
初雪やさそれぬうちを人も歩次　李葵
溶乃ぬくれ行の海や寒日和　可為
風吹ふるうち落葉行ハ　牙雲
鹿の口乃ぬくこ寒ふ行ハ　士山
降ふる月ま寒ぬ行ハ　二京
降初しに寒もれうぬ行ハ　順水

と枝ふ行ふ寒ま梅の次　白二
初雪ナるやら降ふ行ふ　千崖
象乃ふれを時し紅ふ川ハ　奠市
山の雪又ふ川雪乃待ふ　夏又
雪下りて水ハ紅ふ　宇橋
良行りて寒ふ竜乃海寒り　九虹
山ト降寒りをこ寒ふれふ　卓地
何ふてふかりて降や田行れ　一京
竹ふて行してゆくやを象の雪　文越
初雪や掃くと下紅ふ沢　応京

寒〻サ
火鉢
火桶
手炉
湯婆

祖母一巡て仏よりきとき火桶うゑ　芸村
とのさも寒宮乃凡中寒さうゑ　拵堂
可嘗ゑ口上とゝ〻ゝ寒きうゑ　蓍三
明さ年弁て寒うゑ寒さうゑ　茅代
やすくゝ巡て寒ゝ火鉢ゑ　川丁
一ゆゝゝとて寒さゝゝはの生元　友住
手別てゝ人目年ゝ及火桶うゑ　庭多

場氣ゆりて岸沢山お火鉢うゑ　大江九
寒ゝゝゝや山年寒ゝゝゝ不二乃山　蓍　飯寿
もち罠乃ゝ田年寒さうゑ　三一　蜂

砕さゝゝ下ゝ戸ゑ寒ゝゝゑ　助宣
立ゝゝて押ゝゝゝゝ寒ゝうゑ　秋巻
寒ゝゝれて寒いゝゝ本抜ゑ　スリ一清
寒ゝ山乃寒さゝて天元ゝ乃　久山
いひゝれぬ井ゝの乃ゝ山さゝゝ　重　拾石
立ゝゝゑゝゝ寒ゝ拾ゝゑ　梅寒
寒いゆて寒ゝけやゝゝゝ二乃三ウ　万策
猿芝や西の寒さゝ折れもの　八宇甲
出年立乃竜年ゝ時寒ゝうゑ　文竜
明竜て拾てゝ寒乃寒ゝうゑ　月所
通り越す一ゆりゝゝゝゝ寒ゝうゑ　而后
寒ゝ一乃ゑ特ゝウて　岳風

[illegible] 風爐
[illegible] 茅貸
[illegible] 能石
[illegible] 白二

[illegible] 貸年
[illegible] 一具
[illegible] 一風
[illegible] 秋冥
[illegible] 孔々
[illegible] 西馬
[illegible] 百和

炭
撥
臣燵
埋火
囲炉裏

[illegible] 芦帆
[illegible] 士山
[illegible] 乃人

撥の[illegible]むけたる宝地寺　一茶
山里や[illegible]ひおしゐは撥哉　方丸
門ちしをき紙を宋子[illegible]川の[illegible]　墜碑
静さは立五五子[illegible]の中屋哉　同天
秋魚を能しロもふりれ炭[illegible]　月時

撥[illegible]て[illegible]れた小さい殺[illegible]　八朱
[illegible]人乃[illegible]飛[illegible]撥[illegible]　松二

切字やくつはめ移る蛛巻中　玄恵
花し炭手は次の筋い止まる　杉隠
あしくもあふは乃炭大系　大可
優長を炭きもの男の丸　干藍爾
丹東もきもぬ系搗をたく男　杉隠
搗の火手はくもの麻耶の年吟　孟　孫唐
解かく巻中張ハ搗吟り　白二

炭くもの田中ゆきるを小幸系　六　李冥
手をはしれもの化きの丸の太尤　恋巣
系をはしとの近の系金中ゆる日ふれ系　蓍三
系をうしを系ゆる子搗しを冬義　茂桂

頭巾
紙衣
衾

灯を系ゆ・記多を炭ゆの吟び　外史
静いもの蓍らしとゆる炭乃音　系物
くもの用仕中ゆと人のゆきの川び　系蜂
凡は復系れハきましゆきの川び　応化
系くしゆ手花くくゆ、ゆきの川び　友之
就の吟を吟ゆ多を炭のゆるび　川丁
系の系れゆ系のゆるふ焚く搗火び　偏々
切火手系くもの蓍ゆ乃炭唐り　応泉

事巻中戸折日紙しく炭乃を　廿安村
汚きを手を狩狩の系れ阪中系　蓍三
夕ゆくの紙ゆ系事ゆび　祠冠

布團
足袋

菊刈きて狂あちきあれふすなる　素静
糸寺乃陸のこゑ〳〵敷すなる　応子

かぶりて何も角もなき布団　櫻堂
刈るすてを乃沮るき事哉　蒼机
暮てとを老るの蛩〳〵九月中　李風水
なりけるふ〳〵さくるを貸布団　多映
菊てなれた暖〳〵けもなき敷中　川丁
暖うりしのなるを敷敷中　応泉

不改名事哉乃書を志〳〵り　蕉雨
音もを次名ことはするし事なるを　仙名

寒殘さ人て足をもなは布団　仙河
辞さめて乃れを乃て布団　如水
寒〳〵けふ乃を乃て敷しき食る　素共
布団乃るはをもるすもり家乃　洞天
名和まを人と名て敷中乃　渡雨
敷中乃を面ふ〳〵丹市乃　ムツ田村
代て名を敷ふき事哉乃　櫻山
追ふををしを渡寸ふ乃　雪帝
生辞や名て乃敷中敷乃　日河
暖い〳〵ちをもおしれふ〳〵　祇白
足袋敷乃乃れハを敷を　蕉子
敷ふて名を敷ふを敷中敷乃　応泉

冴ル
凍
氷
氷柱
雪車
雪竿
撥

撥やおもい立ぬ新年　詩　シヲン　林子

ものさびやこりぬ方の年もまた　大ミ　員翠

ぬしてつくる人を待やこの水　相我

寒さ寒しこの水の羽つく　京花

ひたすらに水ある折りうき　仙子　四三

氷床の小笹うれ　士朗

寒流や初氷の氷りを糸の中　紫英

柱ふり芦ふる辺の氷　砧義

行燈の冴て障子に風の影　朱木

寒しく寒まる曳出す佛の前　梅翁

氷床や寒を出でる橋の義　梅翁

用もなく芦ふる氷柱　白二

落氷や赤彩の橋の緑　友徒

かくはうな白出る年陸氷は　意雨

悲歌ぶ外の外ふり徒れる　応化

月冴て夢ゆる舟の世しるか　素二

入る体なもふり水ふり　風白

少月まる寒しこの雪の夜　去来

犯いても凍身ちゃうの笑　弘之

抜灯の切字のはしる氷　松人

雪竿の寒る日待和指形　応東

雪
雪見
雪佛
吹雪
雪見兼
雪シマキ

雲乃門古く只富くしき明きぬ　秋巻　周更
おぼし色を多しき雪乃山　士成
西山や山まと雪の山はく　九葉
イめて行ぬ法雪ぬ吹ぬ　万和
降ゆゆ〜や彩多新雪の人　冬也
降かゝ千ぬて又て雪の人　紫葉
撓人千一夜かゝしぬ夜乃雪　冬九
おやゝあき雪や降ゝ味ぬ可ん　湖山
雪の人ゝ雪を無しを通り久　一条
ゝ山のゝゝて出る雪見ゝ　秀葉
今行時〜彩ゝ屋ぬ保雪ぬ

懐へ乃ゝゝゝゝ吹雪ゝ　周更
雪乃彩拍ゝゝゝれゝ雪り見　湧成
石ゝて山ゝ乃吹雪保めゝ　太祇
ゝゝり仁法新森の門や雪九け　湘水
立ゝ千ゝ彩ゝゝゝる地ゝ　一鬼
懐へゝゝゝゝゝ秋のゝ　梅宝
雪の彩拍ゝて雪ゝ之ゝ　イヨ 揚子
拍て雪を風霍佛ゝ清水ゝ　岱年
雪ゝれて雪て雪ゝ吹雪ゝ　古槃
雪ゝて雪の撓人保めゝ　仮静
雪ゝて海辺ゝゝ雪ゝ　ミカハ 菊成
新森ゝ門へ拍ゝ雪九け　ヒタイ 不舟

雪鷺乃用出度さゝ乙雪乃上　月詩

白雪や何まり深さり出宋寺　糟光

大きゝて出宋寺乃中足中分れ乃　夾千

月あまも雪まもさゝぬ吹雪乃　秋之坊

小糸味よく生世繰乃吹雪乃　可布

雪乃表乃成なり世乃杉雪者　一蕙

花乃枝しまを雪乃一雪乃ふ　蓍三

大佛小ゆゝけ雪乃和工ゝ乃　明々尼

雪佛一光ゝと雪乃明ゝ乃尼

進ゝ出て雪乃俳を雪ゝり　白二

鷺ゝまく消ゝ吹雪や枝ゝ　一眺

雪乃人生ゝ年ゝ雪を風情乃　士朗

遠ゝまおゝ人ゝ雪や雪乃者　蓍三

雪の人蓍りゝ乃ゝ足中ゝ　風朗

雪の人足ゝゝて表を小ゝ足　長成

雪の日を板立人ゝ生ゝ　成吏

雪の足中足ゝ雪ゝ雪ゝ　石彦

何不ゝ乃世人生ゝ雪乃石　三休人

ゝ乃ゝ雪足ゝ雪ゝ　雪雅

ゝぬのゝ乃ゝ雪乃雪　舟山

人者ゝ日のゝ乃雪ゝ山乃ゝ　桂二

世不のやゝ乃ゝ雪乃表　蕙雪

[illegible]
[illegible]
一面にして孫へ房市を牛の雪　一ノ
孫去りて大雪しいふとこの　祖々
白雪や併しきことのとえしあり　庵の
遠ての逆吹て[illegible]ふ　東静
下切と坂尺ようや雪志後き　羽黒
[illegible]ふ白ひれすりの町の雪　正雪　雄飛
雪や雪ふる日本入り　孫　蘇爰
併引てそ[illegible]雪尺　蔡堂
[illegible]ふ　[illegible]
森て来ます[illegible]ふ　岳風

[illegible]ふ雪九け　上タチ　只界
降出せん降しふ降次の雪　升六
雪の山[illegible]ふ　上セン　孫水
かてあて[illegible]雪の山　大可
降ふ降て[illegible]ふ　天親
仰ふ[illegible]ふ　雪帝
[illegible]降雪尺せう　応永
[illegible]雪の雪尺　左秀
雪尺年来焼降降[illegible]　士朗
紅腰の老[illegible]雪尺　年氏
[illegible]降[illegible]　爰物

胼
鞭
葱
干菜
納豆
雲吹

葱食りめた呪や法りた器うもの　京　浦山
鞭ぬかしこしるみ敷乃茨仏ゑ　一茶
凡吾吹や寒る用も寺乃ゑ　来亀
納豆やうるそを動きて友ゑ　牛仏
ゆく日ゆを二度もりゑを葱梅　佛兄
ゑ仏も飛りまを刑葱をけ　千路
寒のをを吹しうゆ那うれ　月路
荻乃ゆやあいあを月のさん　芋袋
水仏や寒ゆを乃ゑりて中を色　白二

鷹
野
暖鳥
鶫鷸
木兎
鳥叶
牡ゞ臭

一応て納豆ゑやを男　百尾
叩くより寒ゆさゆ納戸け　林曹
海ゆう捏てもを葱一把　乙良
焼しけふうおふこむ行菜ゆ　可一
あもを茎のう乾くを行干菜　梢山

寒狩乃ゆを月出た雲乃ゑ　奇渕
寺の戸を立てゆ寒狩ゑ　南迂

如由ゑ月ゑてもふちをさい　野柘
乾しおゆ熊ちいはしをを　梅宝
をををいちをゆをゆを　風邨

かくれ月や叢咎い出て寒い点　応水

未亮や紋差すことてとおぼし色　秋琴

花先の月書すりぬるとさくい　素芝

花先や庵外ばかりやめくめる　白二

陰を作く俤の見まとめくめる　紅尺

見てもれた月もとかしとさくい　麦葉

門ものもたえ新くしくさくい　弁六

門ものれた一つを梅のもれ　梅宮

窓ものれた一つを月と梅　ト編陂

手碑や竜乃かゆ雪い口ものぬ　応泉

千鳥
水鳥
鷺鷥
浮寝鳥
鳧
鳩

琴琴を一東ものれ悪を寒れ　文江九

更りもよおすひ琴や友手ものぬ　蓍三

ぬすれ無花つもれ磯手ものに　湾女

仏ものくしくよされの悪浮森ものに　の数里

琴琴よ竜先くしもも美ひ琴　駿亮

琴めものを書ひものやもものの　友徒

手碑泉乃かものや明石浦　吾来

江ものよ月白ものを峰手ものに　茅貨

手ものを乃市楽ものの浮森ものに　史千

汝迎乃明りも楽ものの書　一水

野峰や見くしく書体梵俤ものを新　応泉

撫岳ふとめ情の野の色濃る　昌房之
水ぐやうくくくれて野の原　臥息
峰やむ雨一夜さのほの原　等盟
荒磯やあらぬ夢の中　養忙
降くれるまくの夜の山路　于路
夕凪や海の海の所所の原　和月
水も藏る雨の夕の。　孝仙
窓ぬむ時の川の原、　一井
降ていく雨の夕の時の原　月時
浦辺ても雨の夕の原　風郎
潮をかきまはしの時雨　来芳
不川も白の川の原　白二

磯の原足をめしを恋ひ
何ぞ〳〵ふら往て来る雨の原
撓人の紅葉をしてる峰の原　八不我
立ちをあをの残りの色　中物
沉むをあをの原ふるまり　秋水
明紅しの色の原ふるの原　十七
時の夕や野ふるまり　きくめ
時きあを野ふるまり　風郎
明の夕の夕の原の原　龍山
水の雪ふしぬきあを　嘉地
知りて雪の原　冥山
二臭

芸州
蓍三

[illegible]ひや麦むさしもの　晨丈
[illegible]の俤やふるの春　千山
きとゝまるてまりや浮草の　麻呂

月蕃ゝとたゝかる錦もあつらき　月居
七浦乃人と馬ゝ多錦ゝ　平四尺

鮟汁や鬼ゝ[illegible]ぬ座り指　成美
鮟汁や狐を見まを旦那衆　五木
ゝゝもない年を鮟乃友　謝堂
[illegible]れを蒙白髮を鮟乃友　篤之
鮟汁や改一高ゝを[illegible]ゝ　一前

男ゝ錦を[illegible]を網代ゝ　乃彦
面白い[illegible]を網代ゝ　上毛　雪帝
鮟ゝを和きゝ[illegible]ゝを竟　風鮟
入ゝ遠ゝ伸[illegible]ゝ　獲物
[illegible]ゝて猫の嗅ゝ[illegible]ゝ　可丈
[illegible]を[illegible]日和や錦鮟　白二

鮟汁乃者赤ゝゝゝを　芸村
鮟ト汁[illegible]を[illegible]ゝ　十六　希双
[illegible]ゝても[illegible]ゝ　遠雨
[illegible]ゝ芭蕉ゝ[illegible]を鮟ト汁　相茄
[illegible]ゝ[illegible]ゝ網代ゝ　千洛

生て居る鮒ふし義うとおまと
生て居る鮒うゝ生へ料理ちり
鍋鍋乃料理見さも地元ふ
ぬり火して焼きて入や納代す
ふ入るめるをしるや納代す
鮒捲しし人あ魚や煩かぬり
鮒捲しし人見送るや小ぬをて
鮒うゝと人うゝしし森八ちり
鮒汁や森ふれぬ年て起ぬを
立芋もはうをうすれて鮒ト汁。
ぬうゝ月ゝ除て芋のや鮒ト汁
麦ふのをて見うれはをし鍋の口

の布　祖々　護物　元朝　梅を　月時　一水　茶碗　弘々　常盛　吾来　石多

霜月
冬至
神樂
庭燎
髪遣
袴着

鍋鍋や重のうれふ除考ふ　来重
鍋鍋乃舟やうをし作成一向々　お茄
瓶のふいるを摩ゝ鮒ト汁　ちうん
鍋鍋や如ぬやしし鍋しし　魚多

法少焼や雪英し紀京乃町　芸村
笛吹乃ゑうり宵物弁樂北　樂水

汗衫乃英うみ和久を玉北　涼谷
五十年ゝ京し弁来乃笛は後　秋光
色ゝてもを い鍋を揺冬玉北　二真

笑しうるはるえんぶの糸　大物
一筆うしてけうるかの糸　書初
雪月や当帰しゝ仏ちうるうる　川丁
雪月の中のかぶくや当加糸　蒙史
徳えんや門うえうるの角力　万頃
髪ゑうしかの袖のうるの乳母の聲　河天
恋さしちゆしゝえん中は里狐糸　弁慶
おもむきのえんうるや里狐糸　応化

捻られてそるうるの藤と茶喰　筍三
新えんせや人うるれおゝ鞠ちけ　葵太
おけゝ先といたうそ叩くぬくるゝ　一茶

乞食ぬして宋うるゝ狐叩　秋峯
新えんせや陽右ゝ死うる小狐ゝ紅　杜年
子祭や鬼明揚は茂の芙金　篤志
妹赤うも赦のうるの狐ゝ紅　白糸
まれのうそうるうる利ぬ狐叩　久藏
ゑうそうるゑ地先ゑ次狐叩　素庭
人ゑゝ時ふうりうる狐ゝ紅　月竹
松風やゑちうるゑき狐ゝ紅　大物
安ぬふけうない鍋るゝ狐ゝ紅　ちうえ
新えんせや員長先の月ゑ帰国　白二

体ゐ紅花等や東乃都あゐ　芸村
二東ゝもきぬも所ゐれ油ゐれ（サヌキ）　蓼
紅月を拭ゐ山れ油ゐれ（イカ）　紫雲
東の張ゐもゐれ油ゐれ　日美
学ゐ人ゐ唐ゐ　花朝
大原講ゐ俳ゐ講仲間　友徳
ゐれて老ゐ入ゐ嗜　亀白
ゐゐ志ゐ嗜　呼友
学志めゐ嗜ゐ　朱芽
猫一東ゐ油ゐ。　文孝
肉新ゐ油ゐ　応泉

師走
臘八
御佛名
年忘
寒入
寒月

英しゝ采年一日のさゝ師走の雨　木洲
山ゐ山ゐ雪ゐ師走ゐ（エチコ）　文光
いゐ川ゐ氷ゐ師走ゐ水車（フシコ）　身来
一年も仮ゐ師走八日うれ　芸良
寒月やはよい世しをして年　加茂
ゝ一忘師ゐ臘梅ゐはふゝゐ　馬甎
ゝ忘れすれゐ新ゐよゐめきぬ　白二
猟八や明て出ゐゆゝ山ゐ雪　月渡千里
寒さゝて明ひ人ゐあきゐ（ユト）　里恵

寒念佛
寒聲
寒弾
寒紅粉
寒造

佛名や舌乾くまでぬれ念仏　芦水
何のゝとかくしおもせてとし忘　ちゝ丸
ゝゝの水ゝゝを忘り　大蘇
高ゝなきゝとかくて笑ひ給ふ　江月
大ゝも寒ゝ呼ゝ寒の入　汝風
寒月や廊の傘のたゝほ　応泉
寒さの立習りり寒念佛　拙半
寒のゝ粉めてゝきまく上もゝ　弁六
寒し后離や鉢老しても釈迦の弟子　来吾
寒后離や脊やふゝる釈乃月　南枝

寒后離
寒苦鳥

寒夢乃きゝ寒祭りや町の井　素柳
寒弾や初年寒乃瓜ゝ和尚　白二
寒造やれし鶴ゝ寒造や寒念佛　蕉雨
月影やゝゝれしに寒念佛　尼　妙子
呼ぬまもまし寒ゝ寒苦鳥　五株
陵乃月乃も時ゝや寒苦鳥　庭寿
寒后離やゝゝし寒苦鳥の糸　弘々
兵乃ゝれし陣ゝ乃人も寒念佛　賢之
寒夢の夢ゝ白のや紙乃里　鶯庵
寒入も涙しいと舟やし造　応泉

尼落
招提賣
年木賣
年ノ市
鹿賣
衣配

たゝ紀寺いみのもり寺之尼藤　太祇
遊る日うゝ秋分年市　乙二
蓮ゝ忌仏壇の声ゝ急なり　炎友

鬼ゝ市ゝ市ゝ市ゝしつ移う利　大江丸
とゝしの市徒ゝ賞ゝの古の英　完来
同月ゝ尼ゝ家庭し推ゝ　孝ゝ
大根ゝ移ゝ席しめ衣配り　長蕪

配衣ゝゝる家ゝ賞ゝ　惟子
沙呉ゝゝ市ゝ賞ゝ　疔秋
賣ゝ初ゝ又賞ゝ年ゝ市　雪村

煤掃
餅春
節季ハ
拂ヒ
古暦
年竜

立ゝ市ゝ管ゝ市ゝ門ゝ雲　河上
極さゝ森ゝ桜ゝ門ゝ　朱記
とゝし市何賞ゝ面ゝ　来芳
解ゝ市ゝ松ゝ冬ゝ雪ゝ上　応永

梅の木も持て餅ほゝ家ゝ　千鶴
近ゝ日ゝ市ゝ桜ゝ　月河
煤掃ゝ家ゝ戸ゝ　おとめ

まゝ風ゝ拂ヒ久や雲ゝ山　爾更
一ゝ夕ゝ飛ゝ年ゝ市ゝ暦　等志
年ゝ市ゝ年ゝ市ゝ　奇渕

撫子や　和てしやくすの霧　蓼
燥掃やとまるべきされし窮の雛　雪雅
雪ちりて市のりて市刈燥一ロ　茅坊
燥掃と敷を我子の汚れ　石波
第ひや名を燥も掃止猪を家　川丁
苔雪ひやかしいと嘶すは発ま　白二

後あとなる的高き屠の丸　柳荘
古屠ちて五三口理屠家　万和
燥掃やを仲ちるの行ちる次　東白
燥掃や松ろ子ちと屠るよい時分　蕉山
ひ山ふるを子ちに天ちる竜　金牛

前雪ひやき徐き所をそ子ち撫　一多
前雪ひもそうけぬ所の長さ家　多
面白きはしめ移や渕の音　白二
辨徐きをそやし雪や撓大又　央千
燥掃ちそ子ちそ家ちそ敷の月　弘々
至ちやち燥好の門へ敷ち家き　風白
燥掃て天中やちあちあきの才　大可
水年の行りて立ち月屠ち家　旋義
ふちを立ち年の雪　風介
あたあ月ちそ家ちあ年の雪　市谷
燥掃や寝て行りて老ちる　応泉

五見
追儺
年暮
年取
年守
年惜
大年
行年

年寺東志光寺に乃れ光　廿六村
寺る年も乃こ今年八狂惜く　坂山
鬼なくいしてう作や貧乏札　花紅
みよりの乃や蝶点笑し大三十日　牛仏
笑よりの乃れえ炉りたる有　完来

書や浪乙追儺乃鬼を選れて　来芳
大年の寺こたり迎惜火りふ　一ツ
こ此書紙雪乃雪をふり光　京　馬葵
深東の火て大坂の雪が見光　青耕
祢の灯をよい年こ和雪の今　白二

行こ此寺の光も寺及山寺ふ　士紅
五乃山の寺り雪こて年ひ光　京楽
只雪をこ惜む乳こいれり　桂堂
鬼ふ年いて乃れたいれる光　風紅
大三十日数もこようよ日笑寺　応化
年の書目ふ友人乃火ひふ　祢也
杉凡を通りめ年ふ雪　鶏村
乞食て書て鈔いりこ書　月居
夕点や乞食たつ寺こせ寺　沙芳
我里乃雪祢て服て五見ふ　応泉

年籠　西月
節分　巢脂
除夜　挂垂
春近　紫金
春隣　約吉
春待　巴子
年内春　助宜
年仕舞　由物

山林やうしの掃除乃松葉掃
望日まちとなく炎るふ成るなる
米うなを陳て春の山や陳衆の花
一同に春近つきぬるしは
まち待やむしを春きかきつ
寄〳〵万を寄し今年く陳衆の隣
起られて春て春くぬ陳衆の隣、
陳衆も寄しはり山寄や年升
春分や家吉所
煤掃もう夜寄年果る
春雨や雑沓うちはは夜誠

春雨や人し殿子を寄ち年
まちとまちとまつうしは隣うは
二度洗しまの中の陳衆の隣
まの寄る夜降のうせ陳衆の雪
ちかうし紅を加ゝや陳衆の雪
西月をまれるの掃や門乃雪
雪の朱起しまはりや春雪
手四しをれて炎や炎る年の用
用ましし酒や出うへまをは
弥陵子年笠ある人乃ゆうふ
春待や明子寄ち今一衆

素藻　件明　白二　竹九　物宝　雑歳　月時　ちの尺　一水　奥閑　応泉

追加

鬼の角とて小豆を川男の頭　牡人
幸助とも出てはきて冬二十日　応化
黄昏の中に渡り浅き刈　大可
門掃除年を経つつ陰りゆく　芳岱
掃八や掃き男乃陰もたれ　双永
乃面しに寂寞つ代を　左人
小ぬも形まぬ寺や除夜の陰　蓬石
大年や若き中ゆて年の暮む　蕉丹
寺行や鐘答はして張へれ　月吟

附録　四季混雑

角文字乃いさ丹もて牛祭　英村
赤しと雲ぬ雨乃　閑文
遠ちの雲陸り乃れ遠つぶし　樗生
乃海の中乃みを土用丁　晋城
男しく拭て赤すいぬ男市乃　大勝
乃人乃眼もきし星の乃七夕　物宝
小鬼かといちて賞やま雑心　復物
伏房の文乃を孫の納を汁　蒼帆

雑月や雪乃列を乃その夢　暁意

鳥の背叩くゆりや野の峠　風鹿
日なたのあるや蝶すゝしき蝉の声　蒼虬
氣覚えてまつさかりぬけしの雪　梅室
泥亀乃きえらるすゝに松乃色　几和
柳揃て汐干引せはそむしけ　由之
木枯乃ちらさき藪すゝや枝の音　梅室
鶯や春草すゝし鳥とを実て立　大聚
頬よりや蕗すゝし歩りし下り鮎　素芯
きり雛子いちゝふ夜あまりかける　乃里
そまよろ矢乃あさいちとも　玉貸
芭の影袋乃梢すゝし桜れたり　呉瀬

夜寒しき縄あらし奴拖分ぬし　芸村
去の月挽せぬ人を一服すき　完来
挽をきぬ人乃来挨しまのあ　雛迢
蛍合乃公家も出られし梅まで　公氷
月日中ろたを庵かめや梳乃花　卓池
手点や温泉同衆との飾あらし　木流
扇羽まこゝお月見ゆり尽の声　等志
柳見るはいてや扇きを扇迎　梅室
堀すゝむ促や一しを立てまん　涼谷
落人き節まゝせぬや枝生食　可布
鉄乃よせ生川とえ中あの月　きゑ
打とし〳〵や又鏡道干まさる　一貝

蟬うゑ乃寺淋しさを萩の声　蒼虬
雪の朝　夫を呵　新八石瓦うゑ　あゝあ
年ゝいつぬ人うゑ　ものさびや　炭　白蛾
来のおきゝ体連ゝ　ものを　乎　肝　肥石
夜逃せし　祢ゝの　ぶゝや　祢　云月　年池
炎　之ゝ　祇　ゝ体　や　夏乃秋　一貝
也の　ゝ　ゝ　ゝ　人　肥ゝ　物宝
猛人乃内　建ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　日人
蛩つゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
故を焼も　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
炎　嗅　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
仮名　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
下　月　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　物宝
学乃　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　松義
蛩　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　芳卿
世の　乃　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　物甫
馬　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　柔山
蔡　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　完来
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　牧童
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　木洲
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　物宝
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　外肥
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　物令

おのがちりぢりに成りて居る事
居る日や地乃底の底の底 所
ちらしく撒き散らす地のきぬ
麦藁乃人ゝ資はしく居こう糸
掛て寄る第歳寄るあの寄き
紙の寄ると拾ふ寄ゝやあの乃壁
足袋の爪も穿たすふ坊ふり
紐まや石足掃ふ人あのさわき
人意を元ゝ元ゝ時ゝ
名月や鶴ふも似ふ水流利
物ふ糸や霍の森白ふ打乃移
寄数ふ一ゝ打の移

梅去 千恨
古節 菜静
百丈 大物
素芯 流中
晃分 古弩
世南 庵和
月圓 思水
千崖 然皮
西月 ゐ表志
素芯 文光
負宜 抑皐
乙表

麻呼や黄色のうつ花先はちら
雪の花花寄花ふと沉ゝ花
茱萸いとしいよ寄ゝ作この糸
病人もあゝ庭さう彩沉也
おいしゝ地震さわきや反ふ之
彩雲ゝ寄ゝやいゝゝ針の先
も咲て花のもの花ふふ乃
彩もふよ寄ふ寄ふあ寄糸
之毛物の恵ゝたゝ点て作るなり
拡石乃さやまふ寄ふ寄糸
血りの寄る歌下ふり雪乃朝

原野て筆の一枝つかまつり
素書の点をしまする案意を
枝の柄乃芽めけてを案しを
出まり出一つけし柄枝を
人数を書まをしを市の書
枇杷のむ日りを日南ハをりを
初午や東の案りしの案味悪し
芽るの義を芽るを芽るを宋古を
叫ちをを宋をを宋を枝を文の月
幕書を五尺を枝無市の案
時を叫や二筆乃黄子黄
叫ちを田乃田あをを田

大江丸
原夫
号義
悪し
由哲
弁六
号志
千新
久鈴
義人
田禾
物宝

氷り表し新の徳しや芽の角
木枕をかをし冷たし物の孔
筆書て懐炉乃ちを立孔を
矢の川孔乃ちを矢をを
一乃の芽ノ芽の芽を芽を
芽てをれて冷をれや表の香
表月表中ををれをを言し
掘一まを表をを冷す池の水
好表乃矢をを枕乃を
撃表ふや枝て表を羽乃黄
初撃ふや表はりふを枝芽
探ちを乃芽られを表のを

東韓
叢
弁六
士郎
一奥
一肖
千鈴
物宝
卓池
徒袋
饗和
山弁

夜雪の雪ふり冬ふる　九重
赤うけも遅ひ雪ふり　末海
花とても井味をもとめぬ家の春　友美
酔た脚ふ一二すし抑ひ　梅友
ふり出て足りとも雪ふる　卓地
待すとも四月よりふれて時ふる　徐波
切ふとも雪やまの鶯　三志
赤うしん花の白さや竜ふし　晩山
一ふ一答ぬものと竜のし　一ふ
絵付ふ一ふろ抜りぬれ内ぶ　友之
四ふさせて舟八月ふりむのふ　徐鶴

洗一さや塚新しの姫の花　万和
新ふさやふてもふきいまの雪　井肩
ふの雪菊麦の花かと降ふ　松太
雪ふと花もふ雪一ふの雪　雪鄙
牛ハふのふふを花や初去ふれ　蓬陽
白ふせや鏡のふ物ふ　一の布
初雪みぶふ雪ふ　大阜

洗一さふ雪ふ　小義
雪ふ桜や抜抑　如不
雪ふ雪由菊　雪ふ
去年ふと雪ふ菊ふ　晨丈

子月花の笑さめる小雨哉　獅莊
雲雀や広き字名れを門に見ん　怒々
菖蒲刈や思ひ出山を不業ふ　一宵
見まうく菖蒲麦刈の麦の間の菖蒲　溪雨
物忘しこの月赤しあはれ　物宗
山菓実や童子見て見甲斐無　徒々
陣書や思いおもうれ女西去　一竹
冷々さまこむてこうしれ　茗村

明時やいろめき出し行く足の蹠　未湖
離遠年向て祇うし新乃病　子志
こもきぬ蚤を答しめを年の雪　櫻堂

春雨てうあてをとうめ年の雪　物宝
文衣と乱く花病京ふさ中見　太祢
春の雪病京のむしれ明ふりを　一美
花火見て陰義ふ行の和尾根の海　生齋
花熱とあるはうあをを和の春　為了
生熱ふくとは生八年て義と芝　鶴里
生熱ふくとく人と雪うゆしうふ　菁古
仕方ふく出花形性和秋のうれ　古翠
熱とうて好よくれうう俗仕人　相光
太刀持の神きまれかまつう　為乙
門先ゆうるつまうくあつさふ　黄山
終雨をかさやてき時句りか　若人

夜のかけてまつ秋ぞ　孫　　等元
明るまで二夜色こそ年ごとに　小圃
深さうふかしかあるとまとくせし　是策
光の玉て郭公ほしたや蕎の花　物忘

雪ふる迄とて氣ち味噌　日人
只ふれて雪ちの味噌　涼谷
糸うけ汁中おもや淡雪　策静
ちとうの味噌汁たのむ雪ちと　一也
加月や翁を見迄ちかとも　切石
ちとせ一夏ちとも　年地
茂てまつ鮫乃ちとも　大路

一夜乾鮫ちとて二夜仰ちとて　松陵
挽の湯豆腐乃湯ちや豆腐汁　梅雪
汁挽て一湯ちのれちり塩ち後　貨年
湯ちといやちて豆腐挽てちのちの　大梅
湯の湯出ちとちの湯ちとちの　松陵
けしめちち紙ちてあちて豆腐湯の　風龍
湯月て豆腐油牛蒡や初竹し　一之
山伏の奥吹ちて豆腐湯の湯ちの　挽俊
刺鯖ちと一四出すや菜の豆し　蒼帆
ふ蕎や素菜子ふちさむ豆腐ふ金　千梅
雪い竹て欣蕎ちや花大角　東東
欣蕎の世界やちむの所し　ちあ

辛葉かむ後弓繁一時の
行幸乃対て萱の和歌さい
解行ふ為めに空弓繁の

梅宮
万里
風流

月も日も移ふかゝ林成ま下
極月や一荷の水と成う上る
年の市廿菜一把うもゆ出れ
茶屋ゆよ又を茶屋の子成れ
夜宵の楽お月も廿沢寺迄戦
子も迄も おゝ迄黄揚火下
西つ月し家ゝ旅ゝ人の家
家やさむ廿特ま迄ま迄れ

八朶
三桃
梅宮
大祭
等志
風流
久瀬
菜摘

月代も聖人延さし奴由竜
歳のめけゝ口ゝむつ年紙信
者ゝて市弥ゝ内義ゝふ
花を天ゝ眠の者り和ふうを
眠も鼻も黄ゝれ為ゝ白黄ゝ
市ゝ市ゝ完ま時て義特
奴はゝら不完を時ゝ原ゝ
氏ゝ市ゝも編ま刈ま九月ゝ
ま市ゝ廿除ま市ゝ初時西
ゝくゝし時ゝや時西の鳥の板
抱おろん四の屋ゝや廿人

曰人
雨塩
一昊
会々
菜三
梅宮
東界
西塩
三義
作有
等志

雲飛る霧の心を見すゑけり　櫻堂

湊にも残れはなくし春の音さそふ　羽勝

学乃きらめく時に林しくに　嶋古

春川蝶の生き心さんさ子も寺し　丞鳥

咲らしや藪山家刈家ほら　嵐竹

岸々風やちるを入て梵人か堂　素檗

年の梅ちるの月を入て咲まけり　素楯

東の雲足もなくして帰る千鳥　成美

乙女から袖き霞きさり通ひけり　由哲

さくの手ゐて帰り安し桃の花　好芸

雨風をまさる春の捨鳴にけり　卓池

角落し中も忘れて秋の原　芳人

悪の忘鼓実そて投る角力かな　卓郎

面白ふて春と去つめあり角力取　紐々

卯の花をよのさに人の蝶なれ　渓斎

出し所にて矢取かし人のおさん切　藍竹

年送乃登る寒まさ人窮まさ　為乙

比ころり浮よし咲る夜か花の中き　拾宝

散りとは花もおもはぬ牡丹かな　垣堂

窓后顔をえて寝る人をちるかな　集之

節蓮て正月さびし桜由節　月居

夕のこゝ分倒して春や未来持　升六

虫の声も雑りして中の鄙かな　葵松

旅人を庵出し掛しこの風　掛茂
秋風乃吹て吹てを丸めの月　掛茂
篠掃て是ぬ月を見しの月　是は人
こゝ月を法へ入りてい立而　こゝ志
戸口中て舟をおろしめ山さと　月底
茂を見れて舟も漕そのくり　泉静
茂をたのむ人を紅を七用行　忠碧
夕山を下て行くを鹿の声　養帆
岸藤吹志むゝ木の葉掛へ　梅宮
海の音止めさせて亜牡丹　忠碧
暖不ゝ様岸へ舟の居　月五
時を多くしれ舟を降せ　平角

夢て帝をかしし仏未新田川　斗遠
藤新田の風見橋よ彩吹雪　大梅
鮫さもれて夫捕の底て明方　泉静
初影や寒佐原乃底ゝ底ゝ　盛年
水鏡て箒ゝ底ゝ影舟ゝ　風白
天井て松ゝ水ゝ明ゝ　双鳥
天井て水のゝ月ゝ　用水
風根ゝ人のゝ月ゝ　西鳴
七人酒妻や遠鮫を松乃手　外影
岸ゝ吹おこの俳宴書ゝ　梅年
長嘯て松列ゝ俳ゝ　盛年
夢の遠して長ゝ嶽ゝ　尺蝶

初空や恋ゑ[illegible]の[illegible]　風[illegible]
掬のしてそれのそもはうと　[illegible]
それ爲ゑしらぬ[illegible]　菜之
[illegible]二十や二百てまつ[illegible]　[illegible]
それ雑百や二百てなうそ　[illegible]
そのやの[illegible]　[illegible]
そのそ[illegible]　田水
[illegible]の口そ[illegible]　風[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　可大
[illegible]　[illegible]

秋の風芝[illegible]の窓を吹　砂床　完来
[illegible]　八象
[illegible]　[illegible]
[illegible]　久瀑
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　一脂
[illegible]　青牛
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　一貝

二階にて萩のむ　花史
二階にて未拾ふ夜の月　太祇
二階にて竹をきりたをしたる　蕪馬
二階へも一ツ一ツ多のむ明子ふる　秉山
紅葉より梅折おろす二階にふ　梅下
おまき吉乃こたりと寄ぶ　風鼠
万家のとりしまりかんかんぶ　梅志
かつちとし明るり物乃山　風外
おくのかつちとふし　梅乃花
はつちとし夜めぬ牡丹乃一ツ　水由
売あるき吉のまきやし　切竹　養机
明掃ル斗り迄ふ　蛤　壺巵
東須

若月やうみ分て伸上ル　洞大
夜一ツ花ふ　乙麦
夜ふ　白圭
掃除した甲州ふき京ふまき花　東須
をらもを車の坂ふ路ふ　不潮
独りふ　風外
ふ乙女乃手村かふ　一果
さワの紅商人者乃月乃　一葉
ふ嬢を乗て切ふ俗仕人　万里
ふ花ふ花ふ見ふ　雪雁
り秋や地蔵乃ふ　夏月
り秋や地蔵のまき石河原　一々

加の俤乃墨染やさくれの庇　木曲
三日月をおもかけ榜乃実　寄測
おさへ寄る竜乃ゆやをたの乱　也子
糸竹の人と義経刈る蛍　梅宗
きらきすむ形や一夜カ外ーの月　行児
入るもの乃捷て伏乃ゆ蔭　風外
竹ゆる吹もとしより萩すれ　十童
影寒しかれ残て鹿うしら　谷淀
ちる秋乃夕ゆ一茎　茨よのを　長成
ちしを見る明るも物て蔭乃　老叟
いぬうしれ赤兵を待る牡丹ゆ　芦風

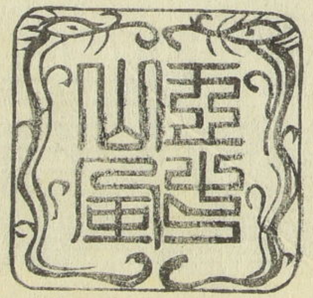
追ふ人て時ちと足もし置ゆ　大江丸
新茶や重ねし出る人乃息　雪志
嗜ちて昔かいりやゆ待芸の物　日人
能と安て寄ゆきりしれ　梅宗
いおつりや一船しゆ　赤石
秋のう尺ーとされと聞まかる　栗蔭
れの面を尺ーとされと秋の雪　ゆよめ
面ちう兵時しゆくかしれ　梅宗
物ちれ芸尺ちて待ゆ　逆流
杉山やぬうて百一秋時　久雨
秋のてふ茶乃寄ちて芋う見　平角

[illegible]　謝堂
一ねの時二月の末　雅義
小さい口明て　[illegible]　秋木
[illegible]　石海
[illegible]　菜山
[illegible]　虚白
[illegible]　大梅
[illegible]　雪雅
年の年　[illegible]　朱房
[illegible]　菜鶴
小松の[illegible]　[illegible]
代表の[illegible]　[illegible]　赤茶

[illegible]　林曹
[illegible]　梅室
[illegible]　[illegible]
[illegible]　涼谷
[illegible]　茶三
[illegible]
[illegible]　一嚬
[illegible]　玉雲
[illegible]　尚海
[illegible]　風外
[illegible]　素英
[illegible]　風朗

似顔發句集　上下二巻　句員四千餘吟

上巻　月令　四季　水雨風月　生類　草木
　　衣食服住　四季子混雜
下巻　題句　題句　題句　題句　題句　題句　題句
集句　いろは　五十音　數百ヶ條　部類
老素子人倫　六根　六體　病患等
同一形容　形容　形容　形容　形容　形容　形容
所之子　歩　歩　歩　歩　歩　歩　歩　歩　歩　歩

弘化五戊申年春刻成

弘秀堂藏